

第1 中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の研究

情報教育研修課 長期研修員 佐野 悟

1 主題設定の理由

現代の社会は、情報量が増大し、情報の価値が拡大した「高度情報化社会」である。情報はそれ自身が形を成すものではなく、メディアを介して初めて表現され人に伝わる。したがって、「高度情報化社会」は「メディア社会」ということができる。情報を乗せているメディアが人々の行動や生き方のみならず、政治、経済、文化に大きな影響を与えるのである。そのような社会において、主体的に判断、行動できる平和的な国家及び社会の形成者となるためには、「メディア社会における生きる力」であるメディア・リテラシーを身に付けなければならない。

静岡県は『「人づくり」2010プラン』で、公立学校における「メディア・リテラシー教育」の100%実施を掲げている。しかし、「メディア・リテラシー教育」を授業で行うことは現在広く普及しておらず、実施方法も明らかではない。「メディア・リテラシー教育」は学習指導要領にも示されていないため、これに取り組もうとしている現場の教師は少なく、今後試みようとする教師が増えたとき、具体的な実施方法が分からずに戸惑うことが予想される。「メディア・リテラシー教育」の実施案が示されれば、それを参考に追試することができ、その普及にもつながると思われる。

現在、学校教育において「メディア・リテラシー教育」の研究が先行しているのは「国語」と「総合的な学習」であると考えられるが、以下の3点から、中学校社会科でも「メディア・リテラシー教育」は十分可能であり、その一端を担う必要があると考える。第1に、中学校社会科で養うべき「公民的資質の基礎」の一つに、メディア・リテラシーも含まれると考えられること。第2に、社会科は資料や史料、データを読み解く場面が多く、社会科を学んでいく上でメディア・リテラシーが不可欠であるため、これをはぐくむ格好の場であること。第3に、政治・経済・文化の情報を伝達するマスメディアそのものを学ぶのは社会科であること、である。

以上のことから、中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の具体的な実施方法を明らかにするために研究主題を設定した。

2 研究の目的

中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーを明らかにし、これをはぐくむための実施案、授業実践例を示すことを通して、中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の具体的な実施方法を明らかにする。

3 研究の方法

(1) メディア・リテラシーについての「社会科的読み解き」

メディア・リテラシーとはどのような能力であるのかを明確にするために、旧郵政省

の「放送分野における青少年とメディア・リテラシーに関する調査研究会」から示された3要素を、具体化、細分化した一覧表を作成する。これにより、メディア・リテラシーをはぐくむ具体的な学習活動をイメージしやすくなると思われる。

(2) 中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーの抽出

学習指導要領を参考に、「メディア・リテラシー教育」ができる学習活動を挙げ、(1)の一覧表を基に中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーを抽出する。

(3) 「メディア・リテラシー教育」の実施案作成

(2)で抽出したメディア・リテラシーをはぐくむための、中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の実施案を作成する。

(4) 研究授業の実践

「メディア・リテラシー教育」の実践例を示すために、(3)で示した実施案の中から研究授業を行う。その際、授業を行うことによって、生徒がメディア・リテラシーの要素をどの程度意識したか、授業前後の生徒に対するアンケート調査により確かめる。

4 研究内容

(1) メディア・リテラシーについての「社会的読み解き」

静岡県は、旧郵政省（現総務省）の「放送分野における青少年とメディア・リテラシーに関する調査研究会」から報告されたもの（資料1）をメディア・リテラシーの定義として採用している。

【資料1】 メディア・リテラシーの定義

| |
|--|
| <p>メディア・リテラシーとは、「メディア社会における生きる力」であり、</p> <p>① メディアを主体的に読み解く能力。</p> <p>ア 情報を伝達するメディアそれぞれの特徴を理解する能力</p> <p>イ メディアから発信される情報について、社会的文脈で批判的(クリティカル)に分析・評価・吟味し、能動的に選択する能力。</p> <p>② メディアにアクセスし、活用する能力。</p> <p>メディア（機器）を選択、操作し、能動的に活用する能力。</p> <p>③ メディアを通じてコミュニケーションを創造する能力。特に、情報の読み手との相互作用的(インタラクティブ)コミュニケーション能力。</p> <p>の3要素からなる複合的な能力である。</p> |
|--|

出典) 旧郵政省（現総務省）の「放送分野における青少年とメディア・リテラシーに関する調査研究会」報告書 平成12年8月 第1章(3)メディア・リテラシーの構成要素 から筆者が抜粋した。

資料1のメディア・リテラシーの定義は、その概念を統括的に述べたものなので、この定義から中学校社会科の授業をイメージすることはなかなか難しい。そこで、中学校社会科で育てる力と、この定義で表されるメディア・リテラシーを結び付けやすくするために、3要素を具体化・細分化した（資料2）。

【資料2】メディア・リテラシーの3要素を具体化・細分化した要素

| 3要素 | 具体化・細分化した要素 | 3要素 | 具体化・細分化した要素 |
|----------------------|--|--|---|
| ① メディアを主体的に読み解く能力 | <p>A それぞれのメディアの特質を理解することができる。</p> <p>1 リアルタイムで情報を伝達することができるメディア</p> <p>2 事実の発生から情報伝達までに時間がかかるメディア</p> <p>3 一度に大量の人々を相手に情報発信できるメディア</p> <p>4 パーソナルな情報交換に適しているメディア</p> <p>5 情報の向きが一方通行のメディア</p> <p>6 インタラクティブな情報交換が可能なメディア</p> <p>7 大量の情報を一度に伝達するのに適しているメディア</p> <p>8 大量の情報を伝えるのに適していないメディア</p> <p>9 情報の保存が可能なメディア</p> <p>10 受信者が受信をコントロールできるメディア</p> <p>11 メディアそのものが個性をもつメディア（教師、司会者…）</p> <p>12 距離が離れている時に使うと効果があるメディア</p> <p>13 変化をとらえるのに適しているメディア（表、グラフ）</p> <p>14 相対的な位置関係を理解するのに適しているメディア</p> <p>15 物事の全体像を見通すのに適しているメディア</p> <p>16 メディアそのものがもつ誇張的要素などについて理解できる。（誇張的要素とは線で表すべきものを面積、体積で表すことによる誇張や、グラフの軸の取り方による変化の量、大きさの感じ方の違いのことをいう。）</p> <p>17 経営、方針などに影響されるメディアがあることを理解できる。（ここでいうメディアはテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスメディア、マスコミ関係の会社を指す。）</p> <p>18 情報を加工しなければ表現できないメディア（地図、絵）</p> <p>19 事実に近い情報を伝えることができるメディア（地球儀、画像、映像）</p> <p>20 簡単に複製することができるメディア</p> <p>21 それ自体が小さく、持ち運びができるメディア（地図、新聞、FD、MO、CD、MD、VHSテープ…）</p> <p>22 メディアそのものの体積が大きく持ち運びに不便なメディア（地球儀、テレビ、ビデオデッキ…）</p> <p>B メディアは限りある情報しか伝えることができないことを理解できる（時間的、空間的に）。</p> <p>C メディアは情報を、選択、切り取り、加工することができるということを理解できる。</p> <p>D 色、音楽、画像などは、イメージをつくり出す要素があることを理解できる。</p> <p>1 赤は暖かい感じ、青は寒い感じをつくり出す。</p> <p>2 濃い色は深い感じ、重い感じをつくり出す。</p> <p>3 薄い色、明るい色は浅い感じ、軽い感じをつくり出す。</p> <p>4 長調、速いテンポ、高く短い音などは明るく楽しい感じをつくり出す。</p> <p>5 単調、遅いテンポ、低い音の重なりなどは暗く悲しい感じをつくり出す。</p> <p>E メディア（言語、記号…）は共通理解を可能にする。</p> | <p>カル（ル）に分析・評価・吟味し、能動的に選択する能力。</p> <p>② メディア（機器）にアクセスし、操作し、活用する能力。メディア</p> | <p>10 発信された情報は何らかのテーマのもとに構成されているということを理解できる。</p> <p>11 発信された時刻を確認することができる。</p> <p>C 情報には文法があることを理解できる。</p> <p>1 ステレオタイプについて理解できる。</p> <p>D 記事の内容と見出し、写真の整合性について考えることができる。</p> <p>E 同じ事象について他の発信源（者）の情報と比べてみるることができる。</p> <p>F メディアから発信された情報は政治、経済、社会、人の命、考え方、生き方に大きな影響を与えることを理解できる。</p> <p>G 受け手によって情報認識の仕方が違うことを理解できる。</p> <p>1 情報を受け取った時の気分、場所、時勢や時世による違いを理解することができる。</p> <p>2 受信者個人の特性（年齢、性別、職業、宗教、思想、国籍…）によって認識の仕方が違うことを理解することができる。</p> <p>H メディアから発信された情報が人々の判断基準になっているということが理解できる。</p> <p>I 時代背景、世界情勢、地理的要因、政治的要因、経済的要因を考慮に入れ、メディアから発信された情報について考えることができる。</p> |
| | <p>A メディアが発している情報内容を読み取ることができる。</p> <p>1 文字や記号（地図記号、天気記号、紋章、各種単位…）を読むことができる。</p> <p>2 グラフから特徴を読み取ることができる。</p> <p>3 グラフから変化を読み取ることができる。</p> <p>4 表から必要な数字、語句を読み取ることができる。</p> <p>5 そのメディア独特の決まりを理解することができる。（独特な決まりとは、等高線、等圧線、地図では上が北、グラフは長さや面積で量や大きさを表す…）</p> <p>6 気づいたことを書き出すことができる。</p> <p>7 他人の書いた文や新聞記事（写真）に見出しを付けることができる（特徴抽出能力）。</p> <p>8 情報内容を要約することができる（特徴抽出能力）。</p> <p>B 情報の信ぴょう性・客観性を正しく判断できる。</p> <p>1 文学、音楽、美術などの作品（情報）は、制作者というメディアを通して表現（発信）されていることを理解できる。</p> <p>2 情報には必ず発信（伝達）者がいるということを理解できる。</p> <p>3 情報は制作者、発信（伝達）者によって取材され、編集する段階で選択、分析、加工、脚色されている可能性があるということを理解できる。</p> <p>4 発信（伝達）者の立場を理解し、意図を読み解くことができる。</p> <p>5 数字の信頼性について考えることができる（調査者、調査対象、回答率、調査数などを考え合わせるができる。）。</p> <p>6 情報に偏見があるかどうか判断できる。</p> <p>7 情報に矛盾や間違いがあるかどうか判断できる。</p> <p>8 事実と伝聞、推量、感想などの区別ができる。</p> <p>9 意図的に切り取られた、または誇張された情報かどうか考えることができる。</p> | <p>③ 読み手との相互作用的（インタラクティブ）コミュニケーション能力。特に、情報の</p> | <p>A 発信しようとする情報に適したメディアを選択することができる。</p> <p>1 発信する情報の内容、量、性質に適したメディアを選択することができる。</p> <p>2 発信する情報に適したメディアの形式（表やグラフの形式、写真の白黒カラー…）を選択することができる。</p> <p>3 情報の読み手を意識してメディアを選択することができる。</p> <p>B 発信する情報をメディアに乗せることができる。</p> <p>1 発信すべき情報を選択することができる。</p> <p>2 情報を形にすることができる。（掲示物、Webサイト、ビデオ…）</p> <p>3 情報受信者（情報を使うもの）の用途に適する情報形態で表現することができる。</p> <p>4 情報受信者に分かりやすくするように工夫することができる。（アイデア）</p> <p>5 情報発信することができる。</p> <p>C メディアを通じて自分の考えを主張することができる。</p> <p>1 資料データを根拠に主張することができる。</p> <p>2 国や地方公共団体の担い手であるという自覚をもち、情報発信することができる。</p> <p>3 自分の書いた文や新聞記事（写真）に見出しをつけることができる（表現力）。</p> <p>D 人の考えを聞き入れ、理解することができる。</p> <p>E 伝達する情報に適する見出しを付けることができる（表現力）。</p> <p>1 内容にあった見出しを付けることができる。</p> <p>2 読み手にインパクトを与えるような見出しを付けることができる。</p> <p>F 数枚の同じ写真（イラストなど）を使って違ったストーリーを組み立てることができる。</p> |

注）この表は、社会科教師の目からメディア・リテラシーを解釈し、中学校社会科で身に付けたい力とメディア・リテラシーを結び付けるために筆者が作成したもので、メディア・リテラシーの全体像を明らかにしたものではない。なお、Aの要素の後に続く1、2、3…の要素は、Aの要素を更に細分化した要素である。

(2) 中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーの抽出

ア 「メディア・リテラシー教育」が可能な学習活動の拾い出し

中学校学習指導要領の社会科の内容から、メディア・リテラシーをはぐくむことができると思われる学習活動を挙げてみた（資料3）。

【資料3】「メディア・リテラシー教育」が可能な学習活動（地理的分野の冒頭部分抜粋）

| 学習指導要領の内容 | | 「メディア・リテラシー教育」が可能な学習活動 |
|---------------------|--|---|
| (1) ア 世界と日本の地域構成 | 地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる。 | ①地図と地球儀の違いについて話し合う。地図は立体を平面で表現したものであるため、方位、角度、距離・面積の比率をすべて正しく表現することはできないが、折り畳んで持ち運びができる。地球儀は実物を縮小したものであるため上記の全要素をほぼ正確に表現できるが、持ち運びに不便である。このような地図と地球儀の特質から図面と模型の特質に一般化し、メディアの特質について考え、用途に適したメディアの使用について意識する。 |
| | (ア) 地球儀や世界地図を活用し①②③、緯度と経度④、時差⑤、大陸と海洋の分布などを取り上げ、生活舞台としての地球を大観させ、地球的規模での位置関係をとらえる基礎的な技能や知識を身に付けさせる⑥。 | ②なぜ暖流は赤、寒流は青で表現されているのか考えることを通して、赤は暖かい感じ、青は寒い感じなど、色によってイメージが作り出されていることを理解する。 ③図法の違う地図を比べ、メディアは必要な情報を切り取って伝えていることを理解する（正距方位図法は方位と距離だけが正しく描かれていて形はかなりゆがんでいるが、航空図としてはこの二つのみが必要な情報である。）。同じ情報でも人によって必要な場合とそうでない場合があること、必要な情報だけ抽出して表現された地図の方が優れている場合もあることを理解する（写真より図鑑のスケッチなどの方が優れている場合もあるなど一般化する。）。 ④日本の位置を説明する活動を通して、位置を分かりやすく表現するために工夫された緯線、経線に気付き、活用できる（メディア独特の決まりを理解できる。）。また、世界共通の規準だからみんなが理解できることを理解する。地図記号、道路記号、言語などメディアはある共通理解を可能にする働きがあると一般化する。 ⑤スポーツの試合（サッカー、メジャーリーグなど）がなぜ早朝や真夜中に放送されるのか考えることによって、時差があることに気付くとともに、日本の報道関係者は世界各地で活躍しており24時間態勢で最新の情報をテレビなどのメディアを通して報道していることを理解する（テレビ放送というメディアの特質を理解する。）。1789年のフランス革命を日本では約50年後に「オランダ風説書」を読んだ一部の幕府高官しか知ることができなかった。それに比べ現在は時間差なく誰でも情報を入手できるくらいメディアが発達したなどメディアの発達に対する理解を深める。 ⑥世界概略図を描く作業を通して、特徴を抽出し的確に表現する能力を養う。 |

注) 『メディア・リテラシー教育』が可能な学習活動の○数字は「学習指導要領の内容」の○数字（筆者付記）と対応している。

再びメディア・リテラシーの視点に立ち社会科の内容を検討したが、あらゆるところでメディア・リテラシーをはぐくむことが可能であると分かった。それは、社会科が資料を読み解く場面が多く、様々なメディアを扱うだけでなく、メディアそのものについて学ぶ教科であり、学ぶ上でメディア・リテラシーが必要なので、それを身に付ける格好の場であるからである。また、中学校社会科で養うべき「公民的資質の基礎」の一つにメディア・リテラシー的な要素も十分含まれると考えられるからである。

イ 中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーの抽出

社会科では多くのメディア・リテラシーを身に付けることができると分かったが、それぞれの教科が主として対象とする事象を考えると、その中には社会科で重点的に扱った方がよいものと、他の教科で重点的に扱った方がよいものがあると考えられる。例えば、社会科では、地球儀、地図、雨温図、史料、マスメディアなど多くのメディアを扱う。それら多くのメディアを扱い、学習していく中でメディアの特質を理解す

る。このように、メディアの特質を理解するという要素は前者に属する。一方、赤は暖色、青は寒色など、色はイメージをつくるという要素は、社会科でも扱うことは可能だが、色そのものについて学習する美術科で重点的に扱った方がよい要素である。

また、同一の学習活動でも複数の教科で視点を変えて扱うことができる活動があることも分かった。例えば、広告作りという学習活動は、ワープロなどのソフトウェアを使いこなすという視点から見れば技術・家庭科の技術分野、誇大広告に騙されない賢い消費者という視点から見れば同じく家庭分野、見出しやキャッチコピーを、本文要約・特徴抽出能力など言語活動という視点から見れば国語科、色・形・レイアウトという視点から見れば美術科、売上を増やす企業努力、表示価格の妥当性について考えるなど、資本主義経済の視点から見れば社会科で扱うことができる。このように、扱う教科によって身に付けるメディア・リテラシーも様々であるので、社会科で扱う場合にはメディア・リテラシーのどの要素を重点的に扱うか意識する必要がある。

以上のことを踏まえて、中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーを抽出した（資料4）。その際、次のように考え、作業を進めた。基本的な機器（コンピュータ、デジタルカメラなど）の操作ができ、様々なソフトウェアを使って文章や絵などを作成することができる能力は、前述の広告作りの学習を行えば、様々な教科で扱うことができる。しかし、コンピュータ操作やソフトウェアを用いた情報処理は、技術・家庭科の学習内容なので、この要素は技術・家庭科で重点的に扱い、身に付けるべきであると考え、ここでは除外した。

【資料4】中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシー

- ① メディアそれぞれの特質を理解する能力。特に、政治・経済とのかかわりを中心に、マスメディアによる報道の仕組みや、メディアの果たす役割、影響について理解する能力。
- ② 問題解決するためにはどんな情報が必要か分かり、適切なメディアを選択し、メディアにアクセスし、情報収集する能力。
- ③ メディアから発信された情報を読み取り、その情報の信ぴょう性・客観性について考えたり、発信者の意図を読み解いたりする能力。
- ④ メディアから発信された情報を、地理的条件、時代背景、政治情勢、世界情勢、経済状況、文化的要素などを考え合わせて読み解く能力。
- ⑤ 自ら収集した情報を、明確な意図をもって、選択・加工・再構成する能力。特に簡単な地図、グラフ、図、表を作成する能力。
- ⑥ 発信する情報内容、受信する相手、発信場面に適したメディアを選択したり、データや情報を根拠に主張したりする能力。

注) 筆者が作成

(3) 「メディア・リテラシー教育」の実施案作成

(2)の研究を基に、「メディア・リテラシー教育」の実施案を作成した。実施案は、地理、歴史、公民の各分野に分け、「学習指導路要領」「学習活動」「扱うメディア」「はぐくむメディア・リテラシー」の4項目を設定した（資料5、6、7）。

【資料5】地理の授業で行う「メディア・リテラシー教育」の実施案

| 学習指導要領 | | 学習活動 | 扱うメディア | はぐくむメディア・リテラシー |
|--------------------------|--|---|--|---|
| (1) 世界と日本の地域構成 | (ア) 地球上の位置関係と水陸の分布 | 地図と地球儀の特質について考える。さらに、図面と模型の特質に一般化して、それらのメディアとしての特質について考え、用途に適したメディアの使用について意識する。 | 地球儀 地図 | 地図(図面)、地球儀(模型)のメディアとしての特質(それぞれの特質はここでは省略)を理解する能力(メディアによってこのような違いがあることを意識させる。) ^① |
| | | 航空図(海図、分布図)にはどの図法が適しているか、また、それはなぜか考える。写真より図鑑のスケッチなど、情報が選択、切り取られている方が優れている場合について考える。 | 地図 | それぞれの地図の特質を理解する。地図は使用目的(用途)に合わせて、どの情報を正しく表現するか選択し、切り取られて表現されていることを理解する能力。 ^{①③} |
| | (イ) 国々の構成と地域区分 | それぞれの国旗(イギリス、フランス、アメリカ、南アフリカ共和国…)のもつ意味について考える。 | 国旗 | 国旗はそれぞれの国の成り立ち、願いが表現されたメディアであることを理解する能力。 ^① 国旗というメディアに発信者の意図が反映されていることと、その意図を時代背景、政治情勢などと関連づけて理解することができる。 ^{③④} |
| | | (ア) 日本の位置と領域 | アメリカ、日本、韓国で使われている地図を比べどのような違いがあるか(地名、国境の違いなど)、それはなぜか話し合う。 | 地図 |
| | 日本で使われている世界地図は太平洋中心で、ヨーロッパで使われている世界地図は大西洋中心であるのはなぜかを考える。 | | 地図 | 情報を、受信する相手を意識し、明確な意図をもって構成する能力(見やすさ使いやすさを考えながら情報発信していることを理解する。) ^⑥ |
| | (イ) 都道府県の構成と地域区分 | 気温と降水量のデータから、雨温図を作成する。縦軸の目盛りの取り方によって、温度変化を大きく見せたり、気温を高く見せたりすることができることを理解する(降水量についても同様)。 | グラフ(雨温図) | 雨温図を作成する能力。 ^⑤ メディアから発信された情報の信ぴょう性について考えたり、発信者の意図を読み解いたりする能力。 ^③ |
| (2) 地域の規模に応じた調査 | ア 身近な地域 | 新旧の地形図を比較し、分かったことや疑問点をまとめて整理し、その中からテーマを決めて調べ学習をする。調べたことをまとめて発表する。 | 1/25000の地形図 情報収集や発表資料作成に使うメディア(図書館、市役所、郷土資料館なども含む) | 必要な情報を適したメディアにアクセスし収集する能力。 ^② 自ら収集した情報を明確な意図をもって選択・加工・再構成する能力。 ^⑤ データや情報を根拠に主張する能力。 ^⑥ |
| | | イ 都道府県 | 生徒が県の観光課の職員の立場に立って、その県に観光客をたくさん呼べるようなパンフレット作りをし、観光客にアピールする(旅行会社、不動産業、農協、漁協、商工会議所など立場・目的を明確にして行う)。 生徒が観光客の立場で旅行に行きたくするか考える(消費者の立場で買うかどうか判断する)。 | パンフレット 情報収集、パンフレット作りを使うメディア |
| | ウ 世界の国々 | 朝鮮民主主義人民共和国の国営放送で放送されているドラマに出てくる家族の豊かな生活ぶりと、日本のマスメディアが放送する貧しい生活ぶりを比較し、どちらが本当の姿か考える。また、そのような違いが生ずるのはなぜか考える。 キリスト教が出てきた時に、バレンタインやクリスマスを取り上げ、日本でなぜこんなに盛んに行われるか考える。また、サンタクロースのイメージは、ある企業がメディアを使って作ったものであることを教師が話をする。 | マスメディア(朝鮮民主主義人民共和国の国営放送と日本の民放局) マスメディア | 国家が意図的にメディアを利用することがあること、メディアがイメージを作ってしまうことがあることを理解する能力。メディアの果たす役割、影響について理解する能力。 ^① 情報の信ぴょう性や客観性、発信者の意図を読み解く能力。 ^③ マスメディアが生活や文化に大きく影響を与えていることを理解する能力。情報には文法があること(ステレオタイプ)を理解する能力。 ^① |
| (3) 様々な面から見た日本 | (ア) 自然環境から見た日本の地域的特色 | 海岸から台風情報を伝えるビデオを見て、台風情報を伝える時に、波が高く風も強い危険な海岸からの中継をするのはなぜか考える(火山噴火等も同じ)。 | テレビ テレビ局というマスメディア | 現場からの映像によって迫力ある報道を可能にするなどというテレビというメディアの特質を理解する。 ^① 迫力ある生の映像を伝えたい、視聴率を上げたいなどという番組制作者の意図を理解することができる。 ^③ |
| | | 雨温図に表現されたその地域の気候の特色を地理的条件(地形、風等)を考え合わせて読み解く。 | 地図(雨温図)、地図、断面図、衛星写真 | メディアから発信された情報を地理的条件を考え合わせながら読み解く能力。 ^④ |
| | (イ) 人口から見た日本の地域的特色 | 人口分布図において、人口密集地域は濃い色で表現されているのはなぜか考える。 | 人口分布図 | 色はイメージをつくり出すという特質があり、それを利用してグラフや分布図を効果的に作ることができることを理解する。 ^⑤ |
| | | インターネットを使いエネルギー資源の埋蔵量、国別生産量、使用量などを調べてグラフに表し、世界の中における日本の特徴を考えて発表する(鉱物資源についても同様の学習ができる)。 | インターネット グラフ 分布図 | インターネットを利用して必要な情報を収集することができる能力。 ^② 自ら収集した情報をグラフにし、それを根拠に自分の考えを主張する能力。 ^{⑤⑥} |
| | (ウ) 資源や産業から見た日本の地域的特色 | 農業、漁業、林業、工業などの産業について生産量の変化や外国からの輸入、外国への輸出などを調べ、世界の中における日本の特徴を考えて発表する。 | インターネット グラフ 分布図 | インターネットを利用して必要な情報を収集することができる能力。 ^② 自ら収集した情報をグラフにし、それを根拠に自分の考えを主張する能力。 ^{⑤⑥} |
| | | (エ) 生活・文化から見た日本の地域的特色 | 地域の方言をいくつか取り上げる。年齢層が低くなるほど方言を使わないのはなぜか考える。 外国の教科書に掲載されている日本の生活・文化の間違っている所を見つけ、どうして間違いがおこったか考える。 | 言語(方言) 教科書 |
| (オ) 地域間の結び付きから見た日本の地域的特色 | 外国で行われているスポーツの試合(サッカー、メジャーリーグ、オリンピックなど)がリアルタイムで放送されたり、外国で起きた事件・事故の情報が瞬時に流されたりするのがどうして可能か考える。 | テレビ テレビ局 通信衛星 | 日本の報道関係者は世界各地で活躍しており、24時間態勢で最新の情報をテレビなどのメディアを通して報道していることを理解する能力。 ^① | |
| イ 様々な特色を関連付けて見た日本 | 日本の地形図、土地利用図、人口分布図を重ね合わせて見ることによって地図に表されている現象を関連付けて理解する(川沿いや海岸近くの平地に人口が集中していることなど)。 | 地形図 土地利用図 人口分布図 | メディアから発信された情報を地理的条件などを考え合わせ読み解く能力。 ^④ | |

注) 資料5、6、7は筆者が作成。なお、「はぐくむメディア・リテラシー」の項目にある○数字は、【資料4】の①～⑥のうち関連する項目を表す。

【資料6】歴史の授業で行う「メディア・リテラシー教育」の実施案

| 学習指導要領 | 学習活動 | 扱うメディア | はぐくむメディア・リテラシー |
|---|--|---|--|
| (1) 歴史の流れと地域の歴史 | ア 歴史上の人物で知っている(好きな、興味ある)人を挙げさせ、どうして知ったか考えさせる。テレビで見た、伝記を読んだ、父親に聞いたなど自分がメディアの影響を受けていることを理解する(建物、事件等でも同様に学習できる。) | テレビ 伝記 歴史小説 人等 | メディアというものを意識し、自分たちは気がつかないところでメディアの影響を受けていることを理解する能力。① |
| | イ グループごとに、身近な地域の歴史の中からテーマを決め、調べ学習を行い発表する。 地域の郷土資料館などを利用したり、現地調査をしたりして実際の調査活動を行う。 | 郷土資料館、図書館 博物館、市役所、公民館、郷土史家、その他資料収集や、発表資料作成に使うメディア | 必要な情報を、適したメディアにアクセスして収集する能力(郷土資料館などもメディアとして意識させる。) ② 自ら収集した情報を、選択・加工・再構成し、相手に分かりやすく情報発信する能力。⑤⑥ |
| (2) 古代までの日本 | ア 銅鐸に描かれた絵が何を表現しているか自分なりに解釈し、銅鐸が作られた当時の様子を想像し、絵に描いて説明する。歴史はこのようにメディア(史料)を読み解く作業を繰り返し、多くのことを関連付けて体系化したものであることを教師が教える。 | 銅鐸(絵) | メディア(銅鐸に描かれた絵)から発信された情報を読み取り、自分で再構成して絵に表現し、相手に分かりやすく説明する能力。 ④⑤⑥ |
| | イ 文字言語や音声言語は、人類のメディア史上最大級の発明であり、文明の発達に大きく寄与しているのみならず、歴史を研究するにも大きな役割をしていることを教師が話を(もし、言葉がなかったらどうかを考えることにより、重要性に気づかせることも可能。) | 文字言語 音声言語 | 文字言語、音声言語が大切なメディアであること、文字言語、音声言語の特質を理解する能力。① |
| | ウ 「漢委(倭)奴国王」印と「後漢書」、「親魏倭王」印と「魏志倭人伝」を結びつけて当時の中国と日本の関係、日本の様子を調べる。 | 金印(に刻まれた文字) 後漢書、魏志倭人伝 | 印や中国の歴史書から情報を読み取り、時代背景、東アジア・日本の情勢を考え合わせて理解する能力。③④ |
| | エ 聖徳太子が煬帝に送った手紙の「日出るところの天子、日没するところの天子…」から、太子が天皇をして隋と対等外交をしようとしたことを読み取り、当時の東アジア情勢や日本の国内情勢を考え合わせて理解する。 | 手紙(史料) | 手紙の文面から聖徳太子の意図を読み取る。③ 太子がそのような手紙を送ったこと意図を、時代背景、当時の東アジア、日本国内の情勢と考え合わせて読み解く。④ |
| | エ 平仮名片仮名という日本独特の文字が誕生したのはなぜか、またこれらの文字がその後の日本文化にどのような影響を与えたか考える。 | 平仮名 片仮名 | 平仮名、片仮名が日本独特のメディアであることを意識し、それぞれのメディアとしての特質を理解する能力。① |
| (3) 中世の日本 | ア 教師が絵詞の全体像を提示することで、教科書に掲載されているものは一部であることを知る。 | 蒙古襲来絵詞 | 情報は切り取られて表現されている場合があることを理解する能力。① |
| | イ 蒙古襲来絵詞では竹崎長長が特に目立つのはなぜか考える。なぜ軍功を記録するためのものを作らなければならなかったのか考える。以上のようなことを、当時の幕府が将軍と御家人の御恩と奉公という関係によって成り立っていたことから読み解く。 | 蒙古襲来絵詞 | 発信者の意図を読み解く能力。③ メディアから発信された情報を、鎌倉時代の時代背景を考え合わせて読み解く能力。④ |
| | イ 農民、町衆、武士など自分の立場をはっきりさせて自分達の生活ぶりを歴史新聞に表現する。その際、絵図などの史料を必ず取り入れ、自分なりに読み解いたものを掲載する。 | 史料(絵図など) 新聞 | 必要な情報を、適したメディアにアクセスして収集する能力。② 自ら収集した情報を、選択・加工・再構成し、相手に分かりやすく情報発信する能力。⑤⑥ |
| (4) 近世の日本 | ア アメリカ大陸は他の大陸に比べて新しくできたわけではないのに新大陸というのはなぜか考える。新大陸という表現はあくまでもヨーロッパ人側の表現である。 | 言語 | メディアから発信された情報の客観性について考えたり、発信者の意図を読み解く能力。③ メディアから発信された情報を、地理的条件、時代背景を考え合わせて読み解く。④ |
| | イ 長篠合戦屏風などに描かれている武士たちはなぜ、旗をさして戦をしているか考える。 | 長篠合戦屏風 旗 | 旗というメディアの特質、必要性を当時の時代背景を考え合わせて読み解く。①④ |
| | ウ 蝦夷国風図絵(ウイマムの図)を見て感じたことを話し合う。絵に描かれている日本人はアイヌ人をどのように思っていたのか考える。 | 蝦夷国風図絵(ウイマムの図) | 作者がアイヌ人の差別意識をもって描いていることを時代背景を考え合わせて読み解く。③④ |
| | エ 河内名所図絵、尾張名所図絵を比較し、どのような違いがあるか読み取り、江戸時代の手工業の変化について理解する。 | 河内名所図絵、尾張名所図絵(織屋の図) | 河内名所図絵、尾張名所図絵から、それぞれに描かれている当時の手工業の様子を読み取る。メディアから情報を読み取る能力。③ |
| | オ ターヘルアトミアを翻訳するのに大変な苦労をしたのは、何年かかかったのはなぜか考える。辞書というメディアの重要性を理解する。 | 辞書 | 辞書をメディアとしてとらえ、その特質を理解する能力。① |
| (5) 近現代の日本と世界 | ア グーテンベルクが活版印刷技術を確認したことを取り扱い、その技術によって社会がどのように変化してきたか考える(エジプト文明のパピルス、祭壇による紙の発明も合わせて教師が話す。) | 印刷物 印刷機械(印刷技術) (パピルス、紙) | 同じものを大量に複製することができるという印刷機械の特質を理解する能力。同じものが大量に存在するという印刷物の特質を理解する能力。印刷技術が世の中に与えた影響を考えることができる能力。① |
| | イ 何枚ものペリーの肖像画を示し、それぞれ作者はペリーにどんなイメージをもっていたか考える。また、そのようなイメージがどうしてできたか、歴史的背景と合わせて理解する。 | ペリーの肖像画 | ペリーが鬼のように描かれているのはどうしてか、欧米列強の帝国主義によるアジア進出の方法など、歴史的背景を考え合わせて読み解く能力。③④ |
| | ウ 鳥羽伏見の戦いで、圧倒的な数の幕府軍が破れたのはなぜか、錦の御旗との関連で考える。 | 旗(錦の御旗) | 錦の御旗のもつ意味(両軍に与えた影響)を、日本の伝統文化を考え合わせて読み解く。③④ |
| | ウ 明治政府がなぜ新聞紙条例、集会条例を作ったか考える。 | 新聞、演説 | 新聞や演説などのメディアが与える影響について理解する能力。政府による情報統制があったということを理解する能力。① |
| | エ 鹿鳴館の舞踏会の様子を描いた当時の錦絵と、ビゴーによる風刺画を比べて作者は舞踏会についてどのように感じていたか考える。 | 舞踏会の錦絵 ビゴーの風刺画 | 歴史的背景を考え合わせ、作者の意図を読み解くことができる能力。③④ |
| | エ 鉄道敷設状況が分かる地図を見て、どうしてそのような順番で鉄道が敷設されていったか考える。 | 鉄道敷設状況が分かる地図 | 地図から分かる情報を歴史的背景(港と都市・生糸の産地を結びつける必要があった)を考え合わせて読み解く能力。④ |
| | オ 裸同然のガンディーの写真を見て、ガンディーはどんな人か(どんな職業に就いていた人か)考える。白い服を着ている弁護士時代の写真と比較し、メディアによってイメージが作られてしまうことを学ぶ。 | ガンディーの2枚の写真 | メディアの特質を理解する能力。① |
| | カ 「欲しがりません勝つまでは」などの標語について、当時の時代背景(国家体制、戦況、経済状況など)を考え合わせ、政府の意図を考える。 | 標語 | 当時の時代背景を考え合わせて資料を読み解く能力。情報発信者の意図を読み解く能力。③④ |
| | キ ミッドウェイ海戦の戦況(戦果と被害)について、大本営発表と実際のものとの比較し、どうしてそのような発表がなされたか考える。 | 新聞記事、大本営 日本放送協会 | 新聞記事の内容を読み取り、情報の信ぴょう性、客観性について考える能力。時代背景を考え合わせ読み解く能力。③④ |
| | ク 1946年に行われた衆議院選挙の投票の様子を表す1枚の写真(投票用紙に記入しているのは全て女性)を提示する。初めての女性国会議員の写真を提示し、この時女性国会議員は何人当選したか予想させる。実際には、466人中女性議員は39人であったことを教え、どうして女性議員が多く当選したと予想したか考える。 | 投票する女性の写真 女性国会議員の写真 | 情報発信者の意図によって情報は切り取られて伝えられるということを理解する能力。①③ |
| ク 1973年の石油危機の時、トイレットペーパーが店頭から消えてしまったのはなぜか考える。今同じような報道があったら自分はどうするか考える。自分の行動に関して理由付けをする。 | マスメディア | マスメディアが世の中にどのような影響を与えるか理解する能力。① 情報の信ぴょう性、客観性を考えることができる。③ | |

【資料7】 公民の授業で行う「メディア・リテラシー教育」の実施案

| 学習指導要領 | 学習活動 | 扱うメディア | はぐくむメディア・リテラシー |
|---------------------|------------------------|---|---|
| (1) 現代社会と私たちの生活 | ア 現代日本の歩みと私たちの生活 | メディア全般 | メディアを意識し、それぞれのメディアの特質、国民生活への影響を理解する能力。① |
| | イ 個人と社会生活 | アニメ テレビ 雑誌（マンガ） | 私たちがもつ父、母などのイメージはメディア（テレビ、雑誌、家族の言動）によって作られてきたものであることを理解する能力。① |
| (2) 国民生活と経済 | ア 私たちの生活と経済 | テレビCM 雑誌等の広告 パッケージ ロコミ | メディアが企業の経済活動に欠かせないものであり、消費者は企業のメディア戦略に大きく影響されていることを理解する能力。① CMやパッケージから発信された情報の信ぴょう性・客観性について考える能力。③ 必要な情報を、適するメディアにアクセスして収集する能力。② 自ら収集した情報を、選択・加工・再構成し、相手に分かりやすく発信する能力。⑤⑥ |
| | | 不動産のチラシ | 情報の信ぴょう性・客観性について考えたり、発信者の意図を読み解いたりする能力。③ |
| | イ 国民生活と福祉 | 人口ピラミッド | 人口構成について、時代背景や文化的な事柄を考えて読み解くことができる。④ |
| | | 現在の人口ピラミッドと、将来の人口ピラミッドを比較し、どのような社会問題が考えられるか、考え主張する。その際、人口ピラミッドから読みとれる情報を自分の主張に適するように図やグラフに加工する。 | 現在の人口ピラミッド 将来の人口ピラミッド 自分の主張を裏付ける根拠となる資料 |
| (3) 現代の民主政治とこれからの社会 | ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 | マスメディア（新聞） | 職業にはこれは男性（女性）のもの、というイメージがあり、それと反対なら話題性があるのでメディアは取り上げるということを理解する能力。④ |
| | | 新聞 | 新聞社の報道によって、読者に、被害者＝善人、被疑者（加害者）＝悪人というイメージを与えかねないということを理解する能力。新聞から発信された情報の客観性について考える能力。③ |
| | イ 民主政治と政治参加 | テレビ 新聞 インターネット | 選挙結果を予想したり、予想したことを検証するのに必要な情報を適したメディアにアクセスし、収集する能力。② 集めた情報から予想したり、検証したりする能力。③④ マスメディアが選挙報道をどのように行っているか、メディアの果たす役割、影響を理解する能力。① |
| | | 新聞 | 新聞というメディアの特質について理解する能力。① |
| ウ 世界平和と人類の福祉の増大 | 新聞 | 国会、内閣、裁判所で進められていることを各新聞社がどのように報じているか比較してみる。 | 新聞というメディアの特質について理解する能力。① 新聞から発信された情報の客観性について考える。③ |
| | 情報収集や発表資料作成、発表に必要なメディア | 必要な情報を、適するメディアにアクセスして収集する能力。② 自ら収集した情報を、選択・加工・再構成し、相手に分かりやすく情報発信する能力。⑤⑥ | |

(4) 研究授業の実践

作成した実施案から「メディア・リテラシー教育」の実践例を示すために、「衆議院議員総選挙」という単元を選び、研究授業を行った（資料7の太枠部分）。

ア 単元選択の理由

資料4（P.74）の中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーのうち「①メディアそれぞれの特質を理解する能力。特に、政治・経済とのかかわりを中心にマスメディアによる報道の仕組みや、メディアの果たす役割、影響について理解する能力。」は、特に社会科で身に付けなければならない要素であると考えるので、今回この要素を中心に扱うことにした。

平成15年10月27日に、N中学校3年生3学級を対象としたメディアに関するアンケートを行ったが（104人回答）、その結果、生徒は政治・経済の新聞記事をほとん

ど読まないことが分かった。また、テレビ番組の中で報道番組は2番目に多く見られているが、その代表であるニュース番組は、スポーツ、事件・事故、芸能も取り上げるので、前述の実態を考慮すると、生徒たちが政治・経済に関心をもち、報道番組を多く見ているとは考えにくい。したがって、資料4の①の要素を身に付けるためには、新聞やテレビによる政治・経済の報道に目を向けさせる必要があると考えた。

国政選挙は国民の関心事でありニュースとしての価値も高く、新聞やテレビなどでも盛んに取り上げるので、メディアについて学習するには格好の材料である。

また、政治、選挙、政党という内容に関心を示す生徒は少なく、理解も十分ではないが、衆議院議員総選挙は目の前で起きる現実なので、関心も高まり理解しやすく、机上で学んだことと社会的事象を結び付ける適した材料である。

以上のことから、「衆議院議員総選挙」という単元を取り上げた。


イ 授業構想

「選挙結果を予想しよう」「選挙予想を検証しよう」という学習課題を設けた。予想・検証するためには、必要な情報を、新聞をはじめ様々なメディアから収集し活用しなければならない。予想したことにより選挙結果を確かめたいという思いが生じ、多くの生徒が開票速報などの報道番組を見ると思われる。そこで生じるであろう「開票率が低いのに、なぜ当選確実の判断ができるのか。」などの疑問や「どのテレビ局も与党系と野党系の当確数を比べて伝えていた。」などの気付いたことについて話し合うことによって、資料4の①のメディア・リテラシーがはぐくまれると考えられる。また、政党とマスメディアのかかわりを意識させるために、各政党のメディア戦略を取り上げたテレビ番組のビデオを見せる。意欲のある生徒には、マスメディアが行う情報収集と同じ体験をさせ、様々な情報を基に当確を決定しているというマスメディアの報道の仕組みを理解しやすくするために、当日出口調査をさせる。

ウ 授業記録

平成15年11月9日の衆議院議員総選挙をはさんで研究授業を実施した。資料8はメディア・リテラシーをはぐくむ活動を中心とした授業記録である。

【資料8】授業記録

| | | |
|---|-----------|--|
| ○メディア・リテラシーに関する教師の働きかけ | ※その他の学習活動 | ・生徒の発言など |
| 第1時 選挙結果を予想しよう1 …11月4日(火)第2校時 ※マニフェスト選挙、政権選択選挙とはどういうことか確認する。 ※衆議院の制度制度について復習する。 ○選挙結果を予想するためにはどんな情報を集めれば良いでしょう。 ・年(年齢)、政党、出馬地域 ・夢、マニフェスト(公約) ・出身大学、高校(学歴) ・経験、過去の当選回数 ・お金 ・支持率、近所の評判、人気 ・地位、名誉 ○これらの情報はどこから手に入りますか。 ・ポスター ・政党のCM ・テレビ、ニュース ・演説を聴く ・ホームページ(政党、個人) ・パソコン ・選挙カー ・新聞、広告 ・専門家の解説 ・パンフレット ・ラジオ ・後援会から情報を得る ○次の授業では実際に選挙結果を予想します。必要な情報を準備しよう。 | | |
| | | 新聞を提示  |

第2時 選挙結果を予想しよう2…11月7日（金）第4校時

- 収集した資料について紹介しよう。
 - ・チラシを持ってきました。情報の出所は立候補者です。持ち運びに便利だし、立候補者の経歴が分かるのもってきました。
 - ・××新聞です。立候補者の公約や顔などいろんな情報が載っているのて持ってきました。
- 実際に選挙結果を予想しよう。
 - ・××候補
 - 理由
 - ・××新聞の記事に支援の市民らの動きも活発で、陣営全体に活気がでてきたと書いてあるから。
 - ・浮動票である若者や、少々年輩の女性の票を集めやすく、力強さがあふれているから。××市で圧倒的な支持を受けているうえに、××市でもじわじわ人気が上がってきていると××新聞に書いてあった。
 - ・××候補
 - ・××新聞の記事に“長引く不況でさまざまな問題が生じる日本を再生していく…”と書いてある。今の国民は景気対策に一番期待しているのて。
 - ・新聞に、子育て支援体制を整えるという公約を出して女性のために国のためにもやってくれそうだったと思ったから。年金制度の国庫負担割合を三分の一から二分の一に引き上げ、年金の安定につとめる、と書いてあって、しっかりやってくれそうだから。
 - ・××候補
 - ・支援市議などの党関係の組織の運動で、党勢力拡大に向けた戦いを懸命に続けると（新聞に）書いてあるから。
 - ・衆議院選挙区選出議員××県第×区選挙公報の記事に、××さんは公約を正確に分かりやすく書いてあるから。
 - 出口調査の方法、注意事項などについて学習しよう。
 - 次の授業では選挙予想を検証します。選挙予想の検証ができる資料を準備しよう。

選挙結果を予想をする



第3・4時 選挙予想を検証しよう…11月11日（火）第2、3校時

- 選挙結果をいつごろどうやって知りましたか。
 - ・夜中にテレビで見て知った。・テレビで知った。・昨日の朝新聞で知った。
 - ・開票率が低いのに何で当選確実になるの。お母さんに聞いても…。
- 自分の予想が当たった原因、はずれた原因を考えて発表しよう。
 - ・私は公約が分かりやすかった××候補だと考えたが、××新聞には××さんと書いてあり、自分の予想と違っていた。××新聞にもあるように、××さんは、××さんの地ばんである××市のイベントや集会にこまめに顔を出したり連合の支援で（一部略）の××業界にも入り込んで、一年前から人気を集めていたから予想がはずれた。
 - ・自分は選挙前経歴がたくさんあるので信頼されていると考えた××さんが当選すると考えていたが、××新聞には、××さんは××地区では浸透しきれず××さんに一歩およばなかった、と書いてあり、自分の予想と違っていた。××新聞にもあるように自分が思っていた以上に実際には××市の得票数が少なかったから差がついて予想がはずれた。
- 開票速報を見てどんなことに気付きましたか。
 - ・テレビ局によって開票経過、出口調査などいろいろな数が違う。
 - ・局によって××さんが途中勝っているのがあった。
 - ・開票率が1%ぐらいなのに当確の人が出てる。
 - ・一局だけスポーツ中継していた。画面に選挙のことが出ていた。
 - ・NHKは当選確実が遅かった。
- メディアは選挙結果を伝えるだけでなく、選挙の結果にも大きく影響を与えることを、新聞記事、パンフレット、ポスター、などを例に話をする。
- 各政党のメディア戦略を取り扱ったビデオを見よう。

開票速報を見て気付いたことは



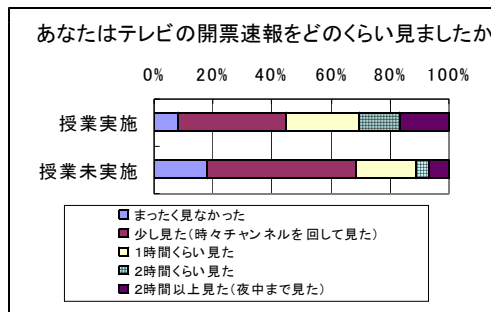
それぞれどうしてか話し合う

エ 授業考察

N中学校3年生に、選挙に関する報道をどの程度見たか、資料4の①の要素に対する意識がどのように変化したかを調べるためにアンケート調査を実施した（11月11日、107人回答、10月と同じ組）。研究授業を実施した組（36人）の生徒には、授業で分かったことを、選挙や政治に関すること、メディアに関することに分け、それぞれ三つずつ記述させた。

アンケート調査によると、研究授業を行った組は、未実施の組より開票速報を長時

【資料9】 開票速報を見た時間



間見たことが分かる。これは授業で選挙結果を予想したため、選挙結果に対する関心が高まり、それを知るためにメディアを活用したからであると考えられる。また、授業にはほとんどの生徒が新聞を資料として持参した。インターネット上のWebページを印刷して持参した生徒も多く、中には選挙公報、政党や立候補者のチラシ、マニフェスト、報道番組の内容をメモしたものを持参した生徒もいた。このことから、生徒が選挙という社会的事象を学ぶために積極的にメディアを活用したといえる。

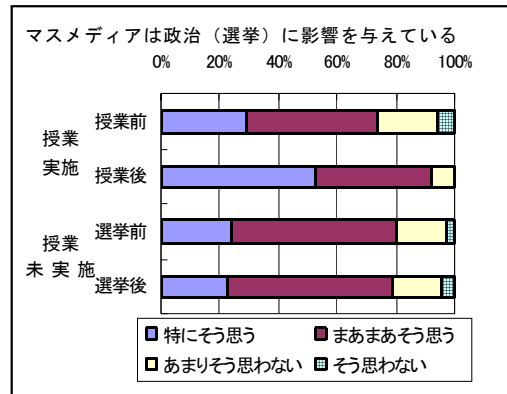
「政治とのかかわりを中心に、メディアの果たす役割、影響について理解する能力」に関しては、アンケート調査により、授業を行った組は、明らかに、マスメディアは政治（選挙）に影響を与えているという意識を強めていることが授業未実施の組との比較で分かった（資料10）。同様に、マスメディアが世論を作っている、政党は（マス）メディアを利用しているということに対してもその意識を強める傾向を示した。授業後のアンケートにも、26人の生徒が政党、立候補者のマスメディア利用について記述していることから同様のことがいえる（資料11）。

「政治とのかかわりを中心にマスメディアによる報道の仕組みを理解する能力」に関しては、授業後のアンケートから、約半数（18人）の生徒が、多くの情報を収集しそれを基に当選確実の決定をしているというとらえ方で、テレビというマスメディアによる報道の仕組みを理解したことが分かる（資料11）。

「メディアそれぞれの特徴を理解する能力」に関しては、授業後のアンケートに、テレビ局、新聞社による報道の違いについて指摘した生徒が24人、テレビ、新聞などのメディアについて指摘した生徒が13人いたことから、新聞、テレビなどのメディアを意識し、メディアの特徴について考えた生徒が多かったことも分かる（資料11）。

以上のことから、生徒は今回の研究授業によって、資料4の①の要素を十分意識したと考えられる。

【資料10】 生徒の意識変化



【資料11】 メディアに関して分かったこと

- 政党、立候補者のマスメディア利用について述べた回答
 - ・政党がテレビ、新聞などのメディアを使い、当選しやすくさせていることが分かった。
 - ・どの政党も、自分達の政党をアピールするのにマスメディアを使っている。 など 26人
- 報道の仕組みに関する回答
 - ・出口調査や世論調査などたくさんのデータを取っている。
 - ・当確を出すまでにいろいろな調査をしているということ。各テレビ局の人が、開票場のデータを見て局に伝えていること。 など 18人
- テレビ局、新聞社による報道の違いを述べた回答
 - ・新聞社によって政治に対する意見がちがう。
 - ・選挙速報の番組では、局によって（当確）数・（当確を打つ）早さが違うこと。 など 24人
- テレビ、新聞などのメディアそのものについて述べた回答
 - ・同じ新聞（社の新聞）でも時間によって内容が違ったりすることが分かった。
 - ・テレビが一番早く、分かりやすく、投票結果などを伝えることができる。 など 13人

注1) 記述内容の分類は筆者が行った。
注2) () 内は筆者が補ったものである。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

ア 中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の実施について

3要素の分析により、「メディア・リテラシー教育」が可能な学習活動をイメージしやすくなった。また、多くの学習活動を挙げることができ、不十分ではあるが実施案を提示できたことにより、中学校社会科で「メディア・リテラシー教育」を実施しようとしている教師の参考になると考えられる。

イ 中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の有効性

本研究を進める中で、今まで行っていた授業においても、教師や生徒が意識していないだけであって「メディア・リテラシー教育」といえる学習活動が数多くあることが分かった。調べ学習において様々なメディアを活用して情報収集を行ったり、史料を読んで為政者の意図を読み解いたりすることなどがそれである。また、メディア・リテラシーが、社会科で身に付けたいいくつかの力の基礎となるので、「メディア・リテラシー教育」の目標と社会科の目標が同じになる場合が多いということも、研究授業などを通して分かった。これら二つのことから、「メディア・リテラシー教育」は社会科本来の目標を達成するために有効であると考えられる。

マスメディアを通して社会的事象を学習することは、以下の点で社会科の学習に有効である。生徒にとって教科書の記述が単なる知識という枠組みから出て、初めて自分とかわる社会的事象としてとらえることができるものとなる。学習内容をテレビなどのマスメディアが取り上げて報道するので、生徒の興味・関心が高まる。目の前で起きている現実をマスメディアを通して見守ることになるので理解しやすくなる。

歴史的分野において、史料をメディア・リテラシーの観点、技法をもって読み解く活動は、内容を詳細に読み取ったり、時代背景を考えて発信者の意図を読み解いたりするのに有効な手だてである。またそれにより、史料読み解きの積み重ねである歴史という学問を、本来の姿に近い形で学ぶことが可能になる。

(2) 今後の研究課題

資料4の社会科で身に付けたいメディア・リテラシーに関して、六つの要素が社会科で重点的に扱う要素なのか、重なる要素はないかを再吟味する必要があると思われる。また、実施案についても現場でより活用しやすくするために、生徒の発達段階、時数配当なども考慮に入れ、項目も含めて見直す必要がある。

今回は、実施案を作成し、実践例を示すことで実施方法を明らかにしようと進めてきたが、資料3(P.73)で示した多くの学習活動を、メディア・リテラシーの視点をもって分析・分類し、「メディア・リテラシー教育」の授業パターンをいくつか示すことも、実施方法を明らかにするために有効な手だてであると考えられる。今後、更に研究を継続しそのようなものを作成していきたい。